

遺伝性乳がん・卵巣がん発症の可能性

乳がん・卵巣がん患者の5～10%は、特定の遺伝子を受け継いだ人がなりやすい「遺伝性乳がん・卵巣がん症候群」だ。若くして乳がんを発症した人などは同症候群の可能性があるが、遺伝子検査をしなければリスクは分からない。北海道がんセンター(札幌市白石区)は専門外来を設けており、道内で唯一検査が可能。ただ、遺伝子を調べれば近親者も発症の可能性を知ってしまうという問題もあり、検査前には十分な考慮が必要だ。

(塚本博隆)

乳がん・卵巣がん患者の5～10%は、特定の遺伝子を受け継いだ人がなりやすい「遺伝性乳がん・卵巣がん症候群」だ。若くして乳がんを発症した人などは同症候群の可能性があるが、遺伝子検査をしなければリスクは分からない。北海道がんセンター(札幌市白石

遺伝子検査でリスク認識



人間の細胞のがん化は、放射線や化学物質などによ

同センターの遺伝子先端医療外来を担当する乳腺外科の高橋将人医長は「これらの遺伝子に異常があると7割の確率で乳がん・卵巣

って遺伝子が長い間に傷ついて起こる。傷ついた遺伝子を修復し、がん化を防ぐ役割を担っている遺伝子が「BRCA1」「BRCA2」だ。どちらかに生まれつき変異があるのがん化を防ぐ力が弱まり、乳がんと卵巣がんの発症リスクが高まるのが分かっている。

道内唯一 道がんセンターで対応

遺伝性乳がん・卵巣がん症候群のチェック項目

母方、父方それぞれの家系について、一つでも該当する場合は遺伝性乳がん・卵巣がん症候群の可能性は高くなる

- 40歳未満で乳がんを発症
- 年齢を問わず卵巣がん(卵管がん・腹膜がん含む)を発症
- 時期を問わず原発性(転移ではないがん)乳がんを複数発症したことがある
- 男性で乳がんを発症
- 本人を含め乳がんを発症した人が3人以上いる
- トリプルネガティブ(がん遺伝子HER2などが陰性)の乳がんといわれた人がいる
- BRCAの遺伝子変異が確認された人がいる

※日本HBOC(遺伝性乳がん・卵巣がん症候群)コンソーシアムホームページより

結果の取り扱い慎重に

近親者にも「知りたくない権利」

がんを発症する」と説明する。遺伝性乳がん・卵巣がん症候群による乳がんの場合、乳房の複数の部分にがんができてたり再発も起こしやすかったりするため、通常の乳がん治療で行われる乳房の温存手術は適さず、全摘手術が基本となる。また卵巣がんは難治性がんのため「いかに早期に発見、治療できるかが重要」(高橋医長)で、検査によって発症の可能性を早めに知っておく必要がある。

検査を受ける目安は、父母、兄弟姉妹、祖父母、おじ・おばに、①40歳未満の乳がん発症者がいる②年齢を問わず卵巣がん発症者がいる③男性の乳がん発症者がいる「など」表1。乳がん・卵巣がんは婦人科がんのため母方の家系に意識が向きがちになるが、父方も対象になるので気を付けたらいい。

「がんになる可能性を早め知って将来に備えたい」と思う人がいる一方、「がんを心配しながら生きたくない」と考える人や、がんになる可能性が高いことを受け入れる心の準備ができていない人もいるからだ。高橋医長は「『がんになる可能性は知りたくない』という権利も尊重されるべきだ」といい、検査結果の慎重な取り扱いが必要となる。

こうしたさまざまな影響も含めて同症候群について知ってもらうため、検査前には必ず専門の医師らによるカウンセリングを行い、納得した人だけが検査に進む。同センターでは、カウンセリングを受けた人の3割は検査を受けないという。

検査で遺伝子に変異があると分かった場合は、本人だけでなく近親者にも関わる。今後出産を考えているなら、子供に遺伝する可能性が高いことを認識しなければならぬ。検査結果が姉妹や娘などに伝わり、その人たちも乳がん・卵巣がんになるリスクが高いことを知ってしまつのも課題だ。「がんになる可能性を早め知って将来に備えたい」と思う人がいる一方、「がんを心配しながら生きたくない」と考える人や、がんになる可能性が高いことを受け入れる心の準備ができていない人もいるからだ。高橋医長は「『がんになる可能性は知りたくない』という権利も尊重されるべきだ」といい、検査結果の慎重な取り扱いが必要となる。

検査方法が採血するだけで手間はかからない。保険は適用とならないため、全額自己負担。同センターの料金はカウンセリングが5250円(30分)、検査が約20万円となる。